

2020年
2月発行

第19号 宝同協だより

め ぼ 芽 生 え



編集発行：宝塚市人権・同和教育協議会

〒665-8665 宝塚市東洋町1番1号(宝塚市教育委員会事務局 学校教育課内) TEL:0797-77-2040/FAX:0797-71-1891

2019年度 ハーとん じんけん作品賞 入賞者のお知らせ

【ポスターの部】

○最優秀賞 (3点)



玉置 向太郎さん (小浜小 3年)



田口 宗佑さん (良元小 5年)



白川 茜さん (長尾中 1年)

○優 秀 賞 (7点)

藤田 結女さん (良元小 2年)・後藤 岳志さん (売布小 3年)・池本 央葉さん (小浜小 6年)
五味 桜愛さん (長尾台小 6年)・吉原 紗々さん (宝塚中 2年)・岡本 茉浩さん (宝塚中 2年)
窪田 きよみさん (一般)

【標語の部】

○最優秀賞 (4点)

澤田 こほろさん (光明小 3年) 『 ホットする ともだちからの どうしたの? 』
永井 来弥さん (小浜小 6年) 『 わたし発 みんなに広げれ やさしい心 』
佐々木 優月さん (宝塚第一中 3年) 『 気がついて 「笑顔」の裏の SOS 』
徳好 美三子さん (一般) 『 言葉で救われ 真心に泣き 愛で生き返る 』

○優 秀 賞 (7点)

梅木 朝葉さん (逆瀬台小 3年)・湯川 あかりさん (宝塚小 4年)・鳴海 葵さん (西谷小 4年)
五島 誠太さん (光ヶ丘中 1年)・矢口 敬大さん (光ヶ丘中 3年)・黒田 豊さん (一般)
堀江 恵美子さん (一般)

【作文の部】

○最優秀賞 (4点)

木田 莉奈さん (中山桜台小 3年) 『 自分で言えた 』
杉田 工さん (宝塚第一小 5年) 『 入院して分かったこと 』
松永 純怜さん (宝梅中 3年) 『 差別をなくす 』
匿名 (市内高等学校) 『 ジェンダー社会について 』

○優 秀 賞 (9点)

舟本 凧那さん (良元小 3年)・今中 奏太さん (西谷小 1年)・池田 彩夏さん (仁川小 3年)
山本 美鈴さん (安倉小 6年)・山室 一樹さん (光明小 6年)・藤崎 愛子さん (宝梅中 3年)
三宅 志門さん (中山五月台中 1年)・千原 葉那さん (中山五月台中 2年)・渡辺 和恵さん (一般)

【写真の部】

○最優秀賞 該当なし

○優 秀 賞 (2点) 萩井 太一さん (雲雀丘学園小 6年)・坂田 華子さん (宝梅中 3年)

※ 最優秀賞・優秀賞受賞者のみを掲載しています。

※ 佳作を含めた全受賞者は、下記の宝塚市のホームページでもご覧いただけます。

<http://www.city.takarazuka.hyogo.jp> 【ページID: 1001134】

ホーム > 教育・子ども・人権 > 人権・性的マイノリティ・平和 > 人権 > 宝塚市人権・同和問題啓発入賞作品

高司中学校1年 ドラピテ ソフィアさんの『 社会の国際化に伴う人権問題 』が、法務局主催の第39回全国中学生人権作文コンテスト兵庫県大会において最優秀賞を、宝塚中学校3年 友金 志観さんの『 これが僕 』が、奨励賞を受賞されました。なお、ドラピテ ソフィアさんの作文は、第39回全国中学生人権作文コンテスト中央大会で奨励賞を受賞されました。



2019年度 ハーとん じんけん作品賞(作文の部)入賞作品の紹介

【最優秀作文】

自分で言えた

宝塚市立中山桜台小学校 三年

木田 莉奈

わたしは、小さい時から、ずーっときつ音が出ている。どうしたら、きつ音がなくなるだろう。わたしは、いつもきつ音のことを心配して、くらしていた。

ようち園の時、友だちから「しゃべりがへん」と言われた。わたしは、どこもへんだと思わず、つうのしゃべり方だと思っていた。だから、そのことをお母さんに話したら、お母さんはちょっと考えていた。それからむとう先生との相談が始まった。

むとう先生は言葉の先生で、どうしたらみんなからきつ音のことを言われないか、考えてくれた。先生は、「もし、何か言われたらきつ音が出てもいいから、大きい声を出して、先生をよんだらいいよ。」と言われた。また、「体をたくさん動かした方がいい。」と言われたので、すぐに水泳と空手を習い始めた。

年長の時に、全員発表するとシールがもらえることがあった。わたしは、きつ音が出るから、一人だけ発表ができなかった。そのことでわる口を言われても言いかえせなかった。家で、そのことを話したら、お母さんが連らくちように書いて、先生は次の日、みんなに注意をしてくれた。でも、それから時々、「しゃべり方がへん。」と言われた。

一年生になって、うれしかったけど心配もあった。きつ音が出るかもしれないからだ。発表したり、友だちと話したりするのがこわかった。だけど、五年生のお兄ちゃんや、同じようち園の友だちがいるので(がんばろう)と思った。でも、やっぱり発表はあまりできなかった。ある時、発表していない人が発表しなくてはいけなくなると、あわてて人とちがう答えを言ってしまった。「へすくす」とわらわれて、とてもはさしかかった。その時に先生が、「国語は答えが一つじゃない。何を言ってもいい。」と言ってくれたので、その時から発表ができるようになった。習いごとの空手では、少しずつ大きな声を出せるようになってきた。

二年生では、たんにんの先生が、「人がきずつくことは、言ったりしただりしてはだめ。」とみんなの前できびしく言ってくれた。クラスの人から、きつ音のことをからかわれたら、先生がおこってくれた。だから、きつ音のことを気にせず話せるようになった。

でも先生が言っても、まだ言われることがあって、とてもかなしかった。一ど泣いて帰ったら、お母さんが学校にすぐ電話をしてくれた。次の日先生が注意をして、からかった子は、反せいしてくれた。

そしてわたしは三年生になった。またクラスがえがあったり、先生がかかるのは、いやだった。なぜかという、友だちや先生とはなれるのがこわかったからだ。でも三年生では、たくさん友だちができた。休み時間におしゃべりしたり、外で遊んだりしている。先生は、きよ年のお兄ちゃんのお母さんに先生だったから安心した。

そして、今までは、先生やお母さんに言ってもらっていたきつ音のことを、自分で言うことになったのだ。はじめは、先生に言ってもらいたかったけど、先生が

「自分で言ったらどう？ きつと言えるよ。」

と言ったので、わたしはちょっと考えて、言ってみようと思った。

「わたしはきつ音が出ます。でもこれがわたしのしゃべり方なので、わらわないでください。」

と中で泣いてしまったけど、ちゃんと言えた。みんなもわかってくれたと思う。男の子が後で、

「えりな、すごく勇気があるな。ぼくだったら、あんなふうに言えないよ。がんばったね。」

と言ってくれてとてもうれしかった。それから、今までの以上に発表ができるし、大きな声で言えるようになった。

相談にのったり、空手や水泳をすすめてくれたりしたむとう先生、いつも心配してくれるお母さんやお父さん、守ってくれるお兄ちゃん、わたしのことを、ずっと気にしてくれた先生たちがいたから、安心して楽しく学校に來れている。でも、一番よかったことは、自分でみんなに自分の思いを言えたことだ。勇気をだして自分で言ったから、みんながもっとわかってくれたと思う。

「きつ音が出たって大じょうぶ。わたしのしゃべり方だから。」

そう思えるようになった。



第9回 宝同協研究大会「人権交流学びのつどい」

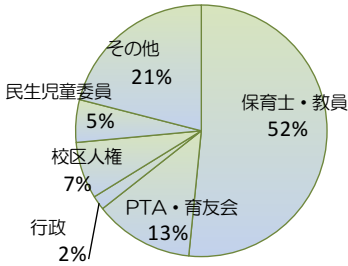


全体会の様子

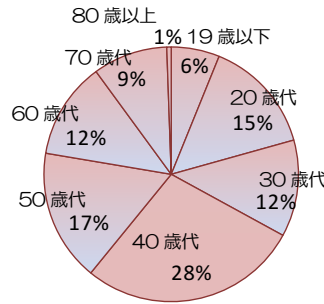
1月18日(土)に開催された研究大会には、277名の参加がありました。ハツラツ手話「ハナミズキ」さんの手話歌に始まり、その後7つの分科会に分かれ、報告者から貴重な実践や体験のお話を聞きました。どの分科会も参加者による熱心な話し合いと交流がおこなわれ、多くの成果を得ることができました。

参加者のアンケート結果と感想を紹介します。【アンケート回答者：181名】

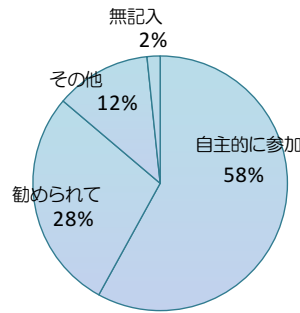
参加者の所属構成は？



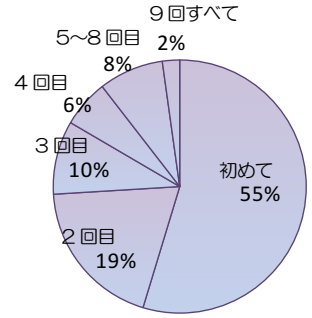
年齢構成は？



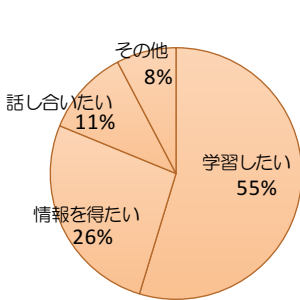
参加については？



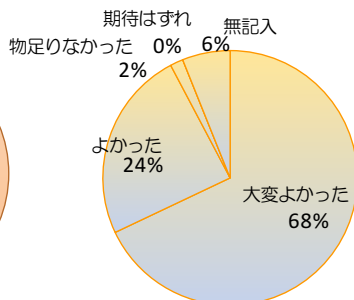
何回目の参加ですか？



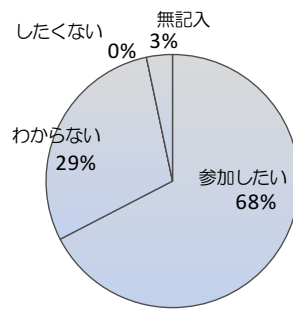
参加の目的は？



分科会の内容は？



来年も参加しますか？



分科会の様子

◆ 分科会別参加者の感想 (アンケートから抜粋) ◆

- ①「子どもの人権について考える」より
ご本人の積極的な姿勢、お母様の悩まれながらも信じる、愛する姿がブレなかったことが乗り越える力につながったのだと思います。パルのお話も実情がわかっていなかったので、とてもいい学びの機会になりました。(60歳代)
- ②「部落問題について考える」より
私自身が階級問題についての知識が少なく、大変勉強になりました。無知であることが一番の解決への障害であると感じ、これからの人権教育に向けて、より私自身の学びが必要だと感じました。(20歳代)
- ③「障がいのある人たちとの共生」より
視力障害の方の具体的な生活、思いを詳しく聞くことができ良かったです。身体障害者補助犬法ができて、名ばかりで、まだまだ多くの店が入店拒否だと知り、本当に驚きました。(40歳代)
- ④「外国人の人権を考える」より
日本人にとって当たり前のことが、外国の方にとってはそうでないことがあまりにも多いことなど、保護者の方の困り感への支援が必要であることを感じました。(50歳代)
- ⑤「若者の挑戦と未来」より
都合により中止となりました
- ⑥「さまざまな性について考える」より
毎年LGBTの研修を受けていますが、毎回新しい発見や学びがあり、自分の価値観を見直し、反省します。人権感覚は磨いていかなければならないと改めて思いました。(40歳代)
- ⑦「人権感覚を研ぎ澄ます中学生」より
今の中学生の「声」が聴けてとても良かった。彼らが伸び伸びと学び、活動する時、社会に対してとても大きな力を発揮してくれると思いました。(70歳代)
- ⑧「人権教育 実践から考える現在と未来」より
道徳についてもっと私たちが学ばなければと思いました。特に個人の力量で問う、任せるのではなくて組織としてどう取り組んでいくのかが宝塚の課題だと思いました。

『共に生きる地域の復興』

昨年八月、県内の教職員で組織される「震災・学校支援チーム(EARTH)」事業として熊本県の被災地を訪れる機会を得た。発災一週間後に派遣されて以来、三度にわたり、被災した学校を中心に支援活動を行ったが、およそ二年振りの訪問である。

山あい位置する益城町は、発災当時の激震地で甚大な被害を受けた町である。町役場が全壊したことで町の機能が失われ、自ずと復興も立ち遅れた。その益城町の中でも、あまり報道されなかった「東無田地区」という小さな集落を訪れた。

阪神・淡路大震災のあと、高齢者で一人暮らしの方々の「孤独死」の問題がクローズアップされたが、同じことは東日本や熊本でも起こっている。最近の報道はそのことをあまり問題としないが、地区の復興のために先頭に立つ田崎さんから貴重なお話を聞くことができた。

『私たちはこの地域の復興のために行政（熊本県や益城町）と様々な課題について話し合ってきた。その中でも、災害公営住宅の建設は大きな課題だ。行政は当初、地区外の空き地に建設する案を出してきたが、それには大反対した。地区の実態をわかっていない。一人暮らしの高齢者を地区外に住まわせることなんて考えられない。孤独死につながってしまう。だから地区内で代替地を提案して、ようやく建設工事が始まった。私たちは地区の中で、みんなで生きていく。』

力強い口調の中に人間の温かさを感じた。地域の復興を「共に生きる」という原点で実現させるという強い想いを忘れてはならないという、私たちがめざす道を教えていただいた感じがした。

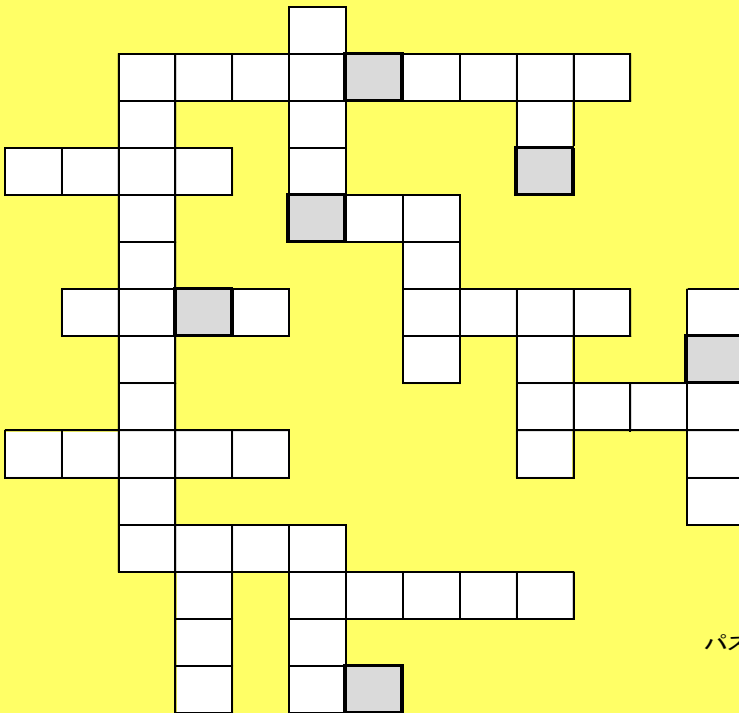
【濱田】



芽生えパズル

<スケルトンパズル>

・たて・よこのマス目に右側の文字をうまくあてはめます。
 ・太いマス目に入った文字を並べ替えて、ある言葉にします。
 (答えは下にあります。)



- 2文字 クニ
- 3文字 イノル イワウ
- 4文字 コソダテ ハートン オンケイ プライド ガッコウ ドリョク ウレシイ ラクエン シンガク
- 5文字 シンジアイ トショカン リラックス オモテナシ
- 9文字 ジンケンキョウイク
- 11文字 ジンケンワークショップ

パズルの答え

【増永】

～ 2020 年度的主要開催日程 ～

- ◇ 宝同協定期総会
5月15日(金) ソリオホール
- ◇ 阪神同教研究大会
7月23日(木・祝) 三田市 三田松聖高等学校
- ◇ 兵人教研究大会
9月27日(日) 淡路市 津名高等学校
- ◇ 全同教研究大会
10月31日(土)～11月1日(日) 新潟県上越市

☆宝同協の行事や活動の様子の写真等を集めています☆

宝同協は3年後の2023年度に創立50周年を迎えます。現在準備委員会を立ち上げ、記念誌作成のために資料整理を行っています。これまでの宝同協の行事や、各校区の人権啓発推進委員会の行事や活動の様子などの写真や資料をお持ちでしたら、事務局にご連絡ください。

宝同協だより「芽生え」編集委員

- 津国 千恵子・池澤 径子・大塚 亜紀・左尾 隆浩
 増永 美咲・谷口 史則・濱田 篤則
 横川 忠・和久 有彦・美除 浩・篠田 充世

